

## 本時のねらい

- ・字形や書く位置に気をつけて、丁寧に書くことができる。
- ・1年間の書写の授業を振り返り、学習した内容を確認することができる。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

授業支援アプリのモニタリング機能を活用し、それぞれの児童が書いた字形の中から難しい文字を共有することで、児童が自分の書いた文字と比較し、その違いに気づき、文字を正しく書けるようにする。

見本をもとにした見直しや、ふりかえり動画を作成、共有することによって、自分や、友だちが書いた文字をしっかりと見つめ、文字を見る時の観点を与えたり、正しく書こうとする意欲を持たせたりする。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・デジタル教材・コンテンツ等
- ・タブレット端末 (iPad)
- ・AppleTV
- ・電子黒板
- ・授業支援アプリ (ミライシード、Flipgrid.)

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までのふりかえり</li> <li>ミライシードを使い、「も」「ね」「ぬ」を書き、共有し、お互いの文字を見る。</li> <li>○本時の目標を知る。</li> <li>【学しゅうした ことを おもいだして、かいてみよう】</li> </ul>	ライブモニタリング機能を使い、良い例を表示することで、友だちが書いた字と見比べ、違いに気づき、より正しく書くための意識づけを行う。
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の言葉を聞き、その言葉を丁寧に書き、聴写をする。</li> <li>○見本をAirdropで受け取る。</li> <li>○見本と見比べ、自分の間違いを修正する。</li> <li>○見本を基に、フェルトペンで清書を行う。</li> </ul>	自分が苦手な文字については大きく画面に表示させるなど、細かいところまで意識させる。 教員から修正箇所を画面共有することで、評価の観点を意識させる。
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の間違いを修正したものと清書を並べ、注意したところ、がんばったところについて、ふりかえり動画を撮影し、Flipgridに提出する。</li> </ul>	修正したもの、清書、自分の顔をタブレットの画面に表示させながら説明することで、自分の書いた文字の変化をしっかりと比較させる。  教員は後日、ふりかえり動画をQRコード化し、清書とともに返却する。次時にお互いの動画を視聴する活動を行う。

## 1人1台端末を活用した活動の様子



ライブモニタリングでの前時までのふりかえり場面



ポイントの入った見本を参考にしたお直しの場面



ふりかえり動画

## 児童生徒の反応や変容

「見本がアップで見れるから、おなおしがしやすかった」「じぶんが見たい字だけをみられてよかった」など、見本をしっかりと見て、自分の字と比べる経験ができていたように思う。「ふりかえりのときもういっかいじぶんで見てよくわかった」と、説明をしながらふりかえることで、より目標に沿ったふりかえりをする事ができた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

各自でチェックすることが難しい、「字の形」について、客観的に見て、みんなで楽しみながら学ぶことを意識した。また、友だちの書いた文字とふりかえりを共有することで、文字を意識的に見る観点を育みたい。